

年齢別に見たがんの罹患

年齢別にみると、男女ともに、2010年に新たに診断されたがんの65歳以上の割合は男性では73%、女性では63%を占めた。一方、働き盛りの40-64歳の年齢層も男性で25%、女性で32%を占めている（図2）。

女性の40-64歳のがんが多いのは、この年齢層の乳がんが多いためである。また、女性の15-39歳のがんが男性よりも多いのは、この年齢層の乳がんと子宮がんが多いためである（図3）。

ほとんどの部位のがんは、男性が女性より罹患率が高い。男女とも年齢が高くなるほど罹患しやすく、特に50歳以上になると年齢階級別罹患率が上昇する。一方子宮においては20歳代、乳房においては30歳代から罹患率が上昇する。（図4）

図2 年齢別内訳(%) (表2-Aから作成)

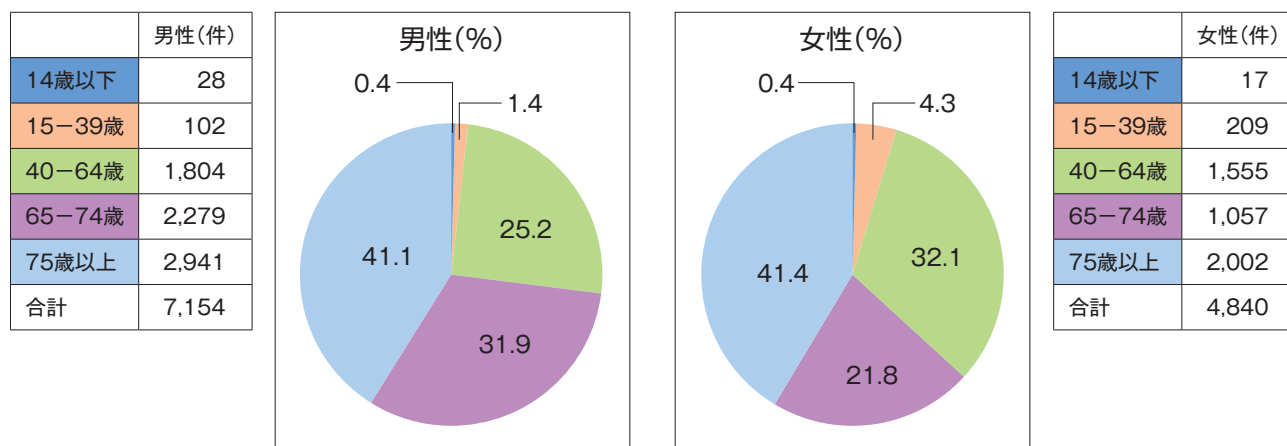
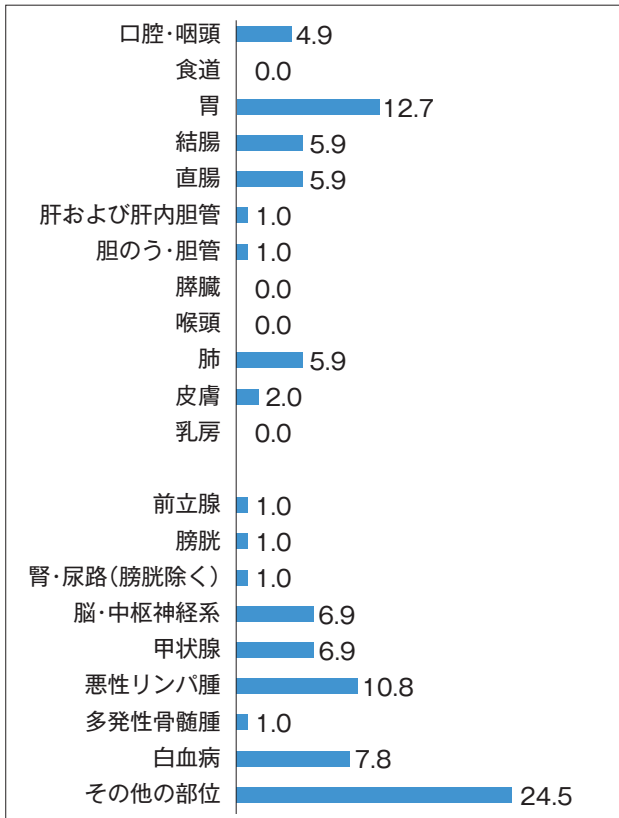
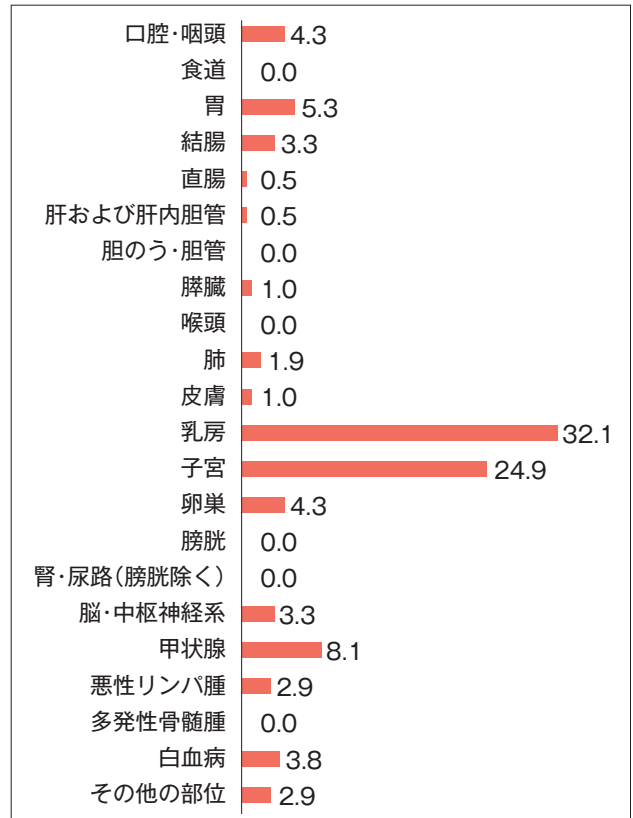


図3 年齢別部位内訳(%) (表2-Aから作成)

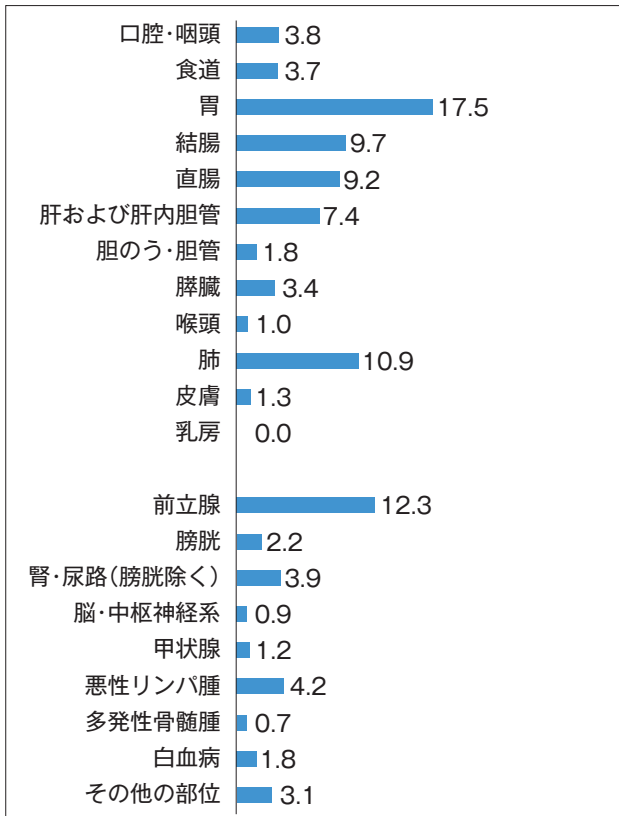
男性 15-39歳(%) 102件



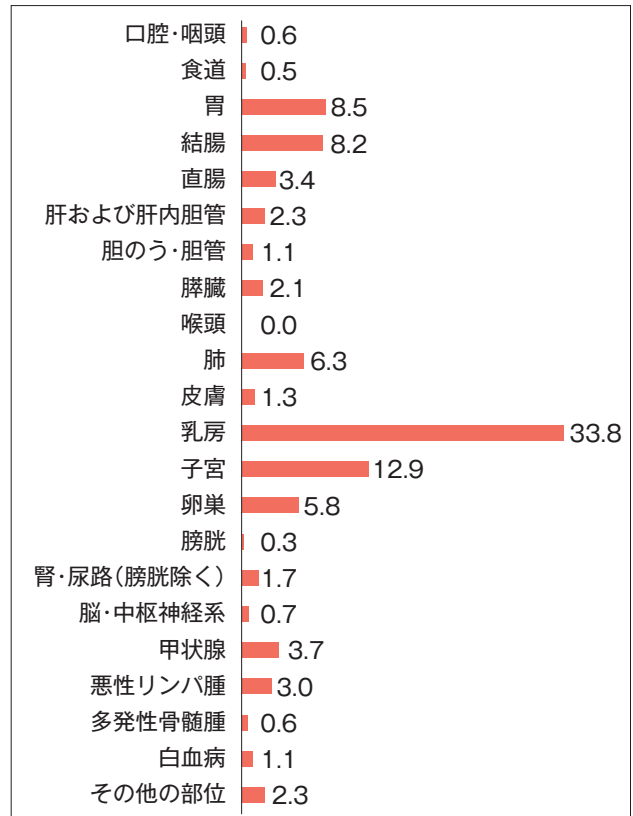
女性 15-39歳(%) 209件



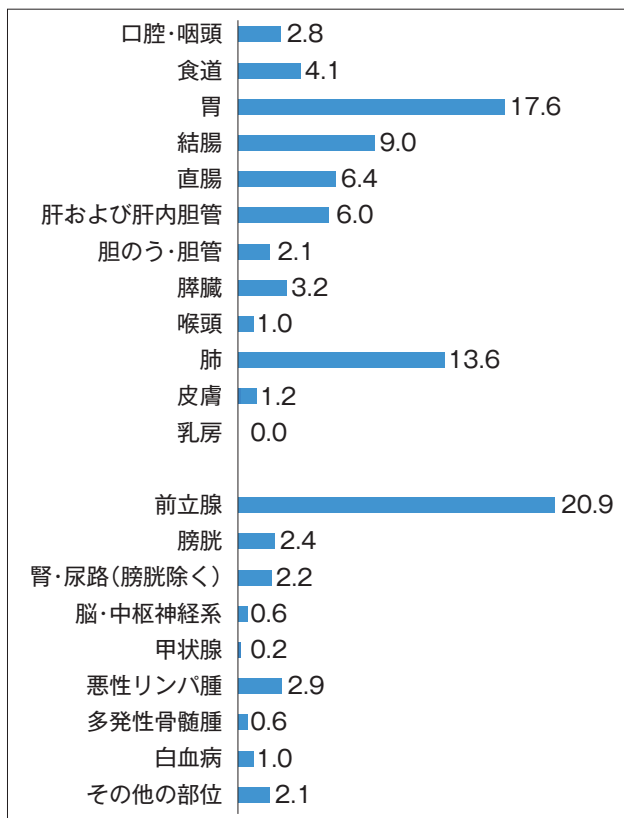
男性 40-64歳(%) 1,804件



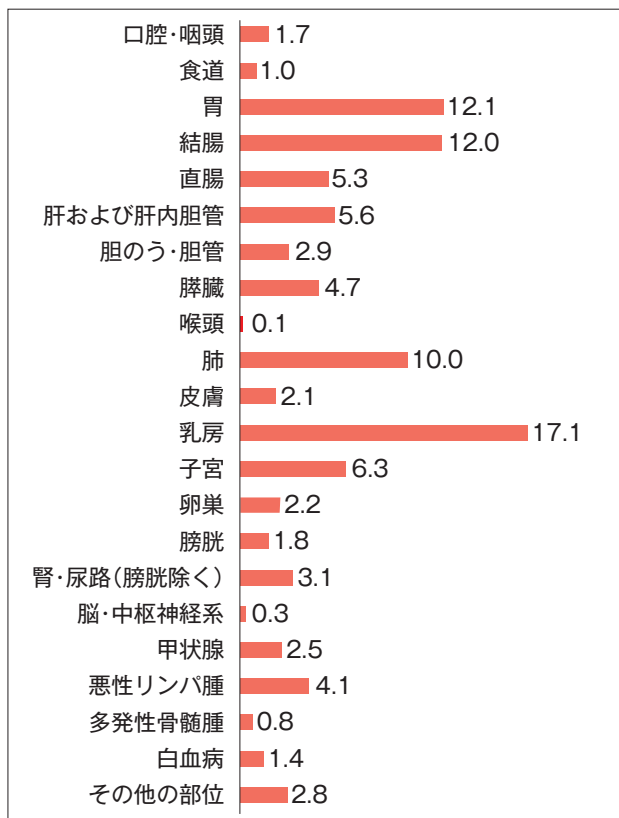
女性 40-64歳(%) 1,555件



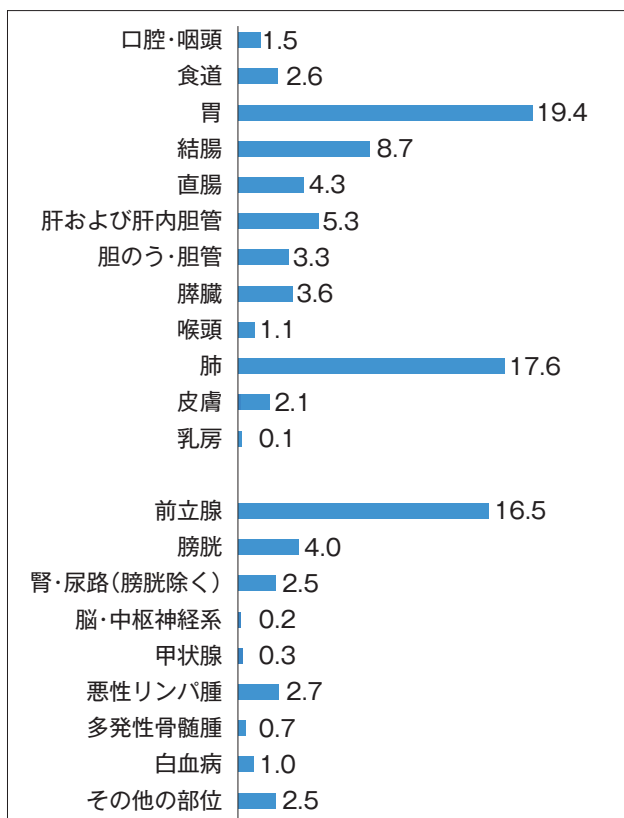
男性 65-74歳(%) 2,279件



女性 65-74歳(%) 1,057件



男性 75+歳(%) 2,941件



女性 75+歳(%) 2,002件

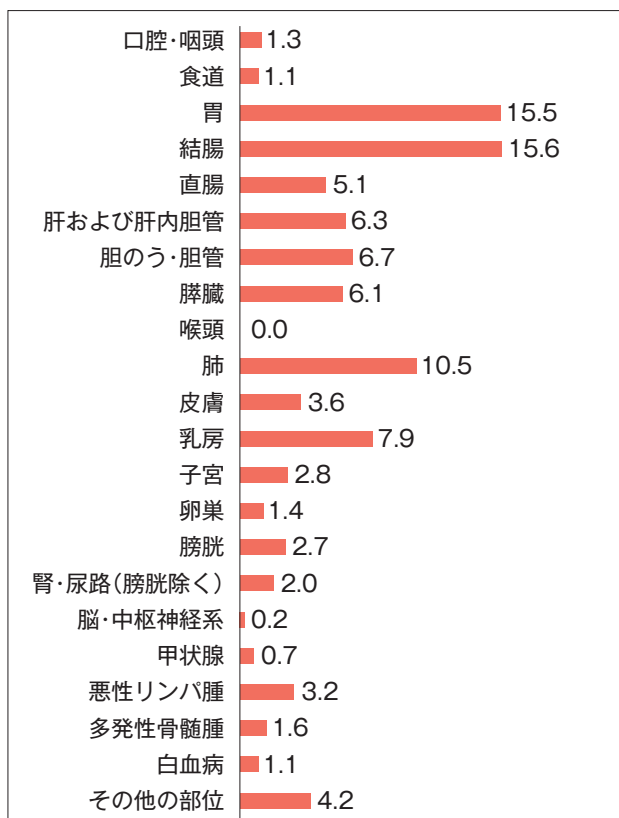
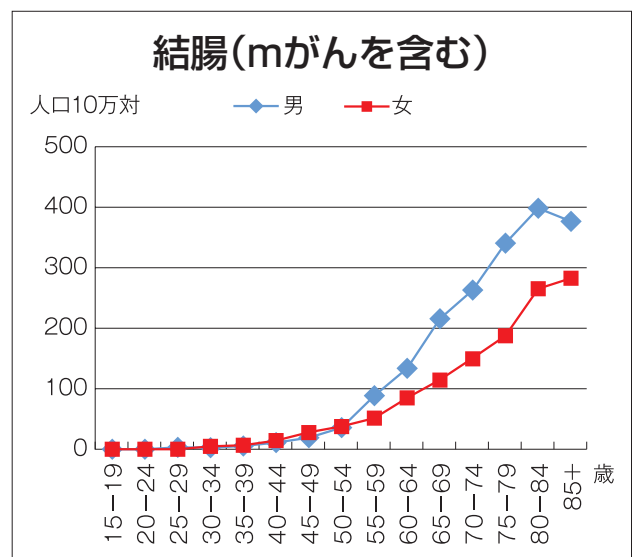
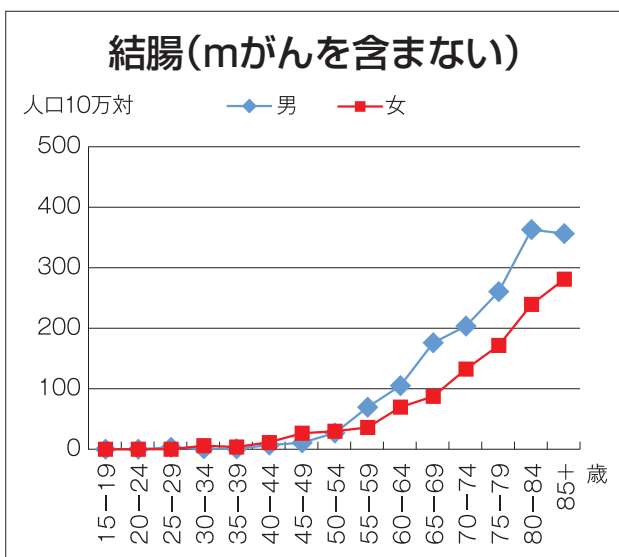
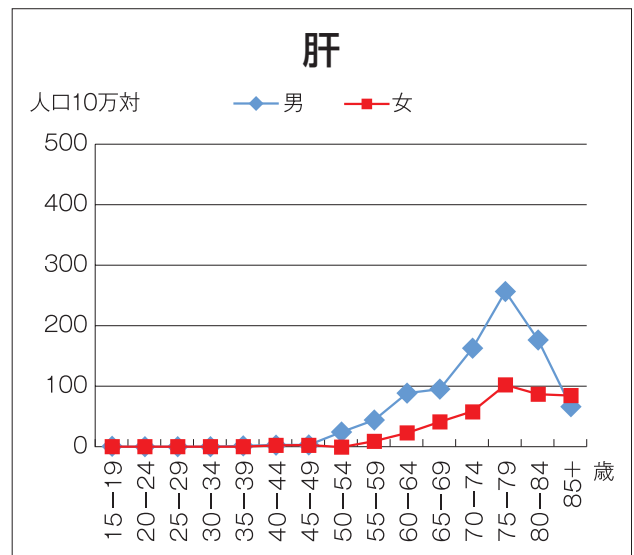
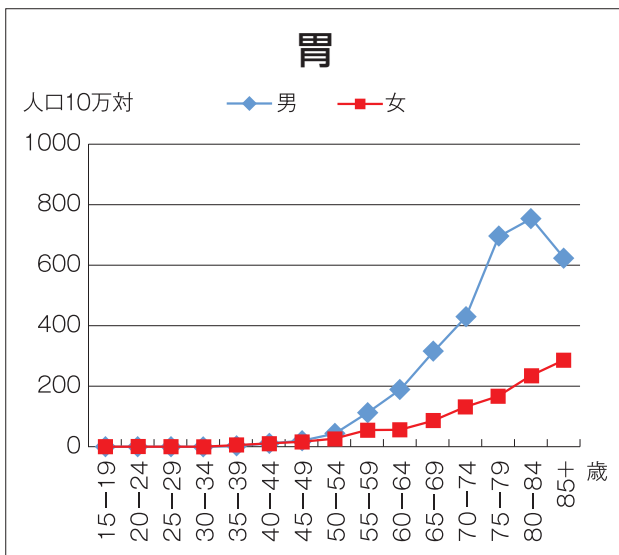
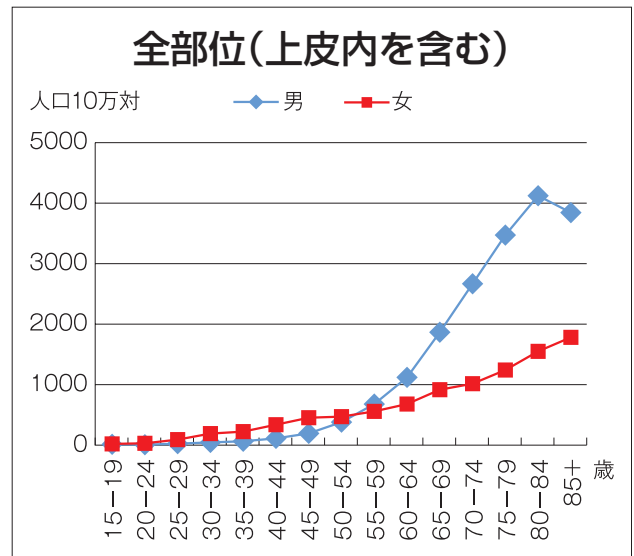
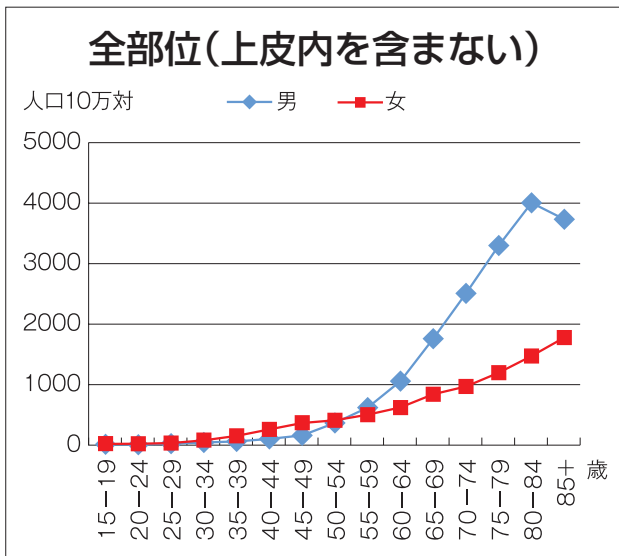
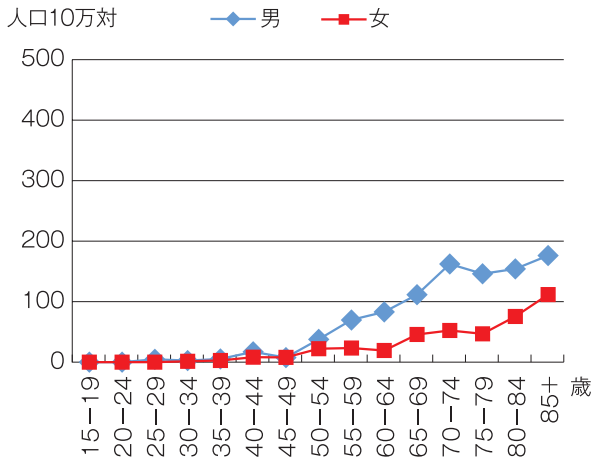


図4 部位別年齢階級別罹患率:人口10万対 (表3-A、Bから作成)

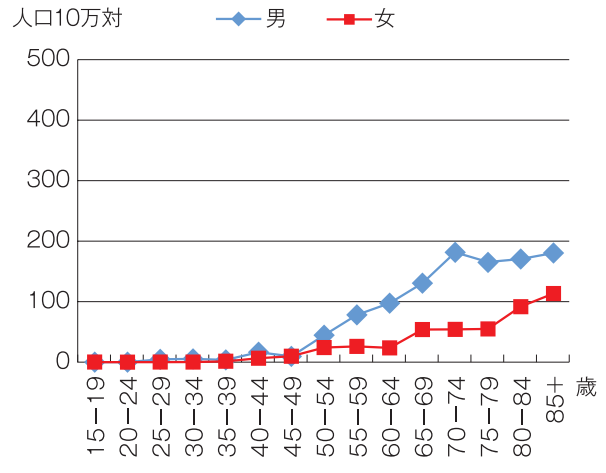


注)mがんについて:我が国の地域がん登録では大腸(結腸および直腸)の粘膜内がん(mがん)は上皮内がんとして扱う

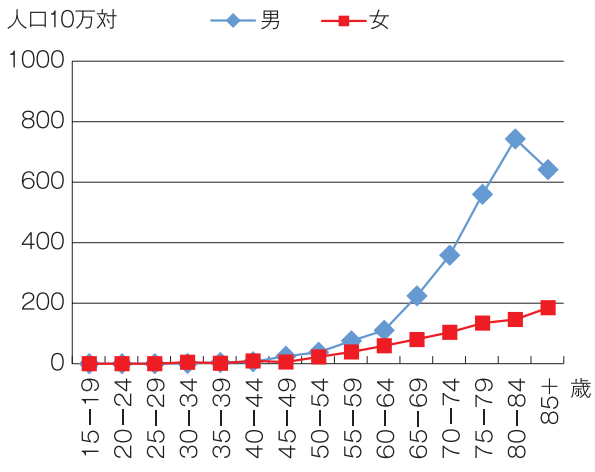
直腸(mがんを含まない)



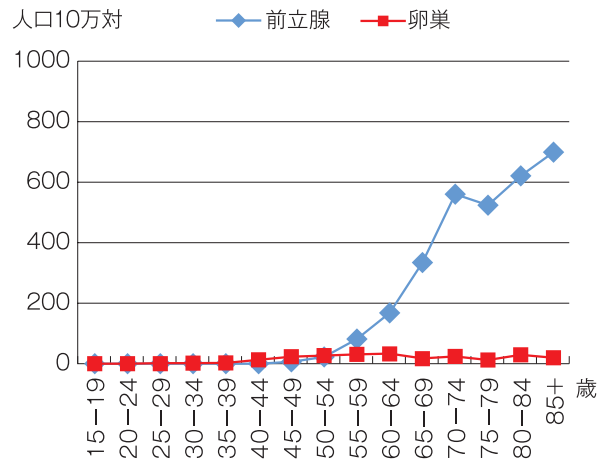
直腸(mがんを含む)



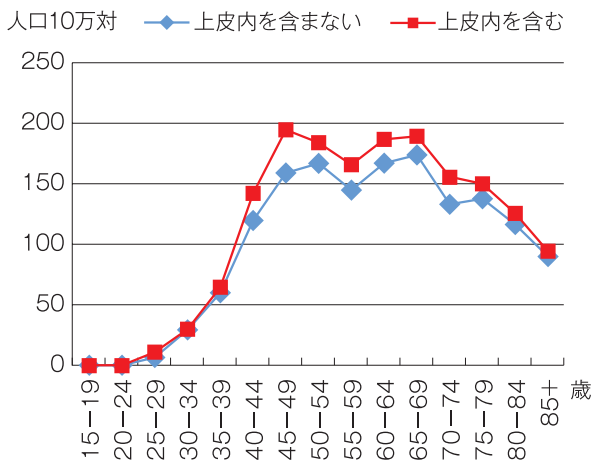
肺



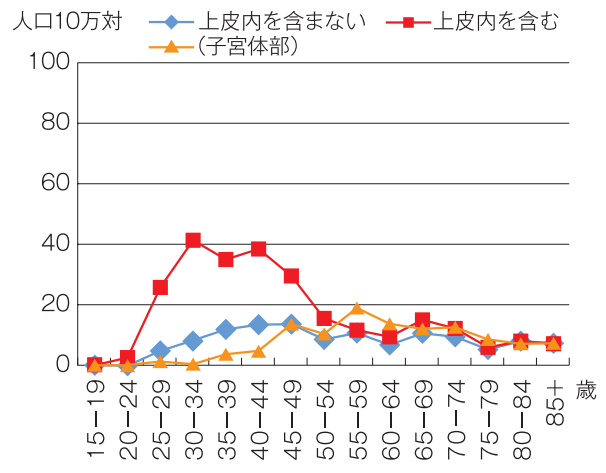
前立腺・卵巣



乳房



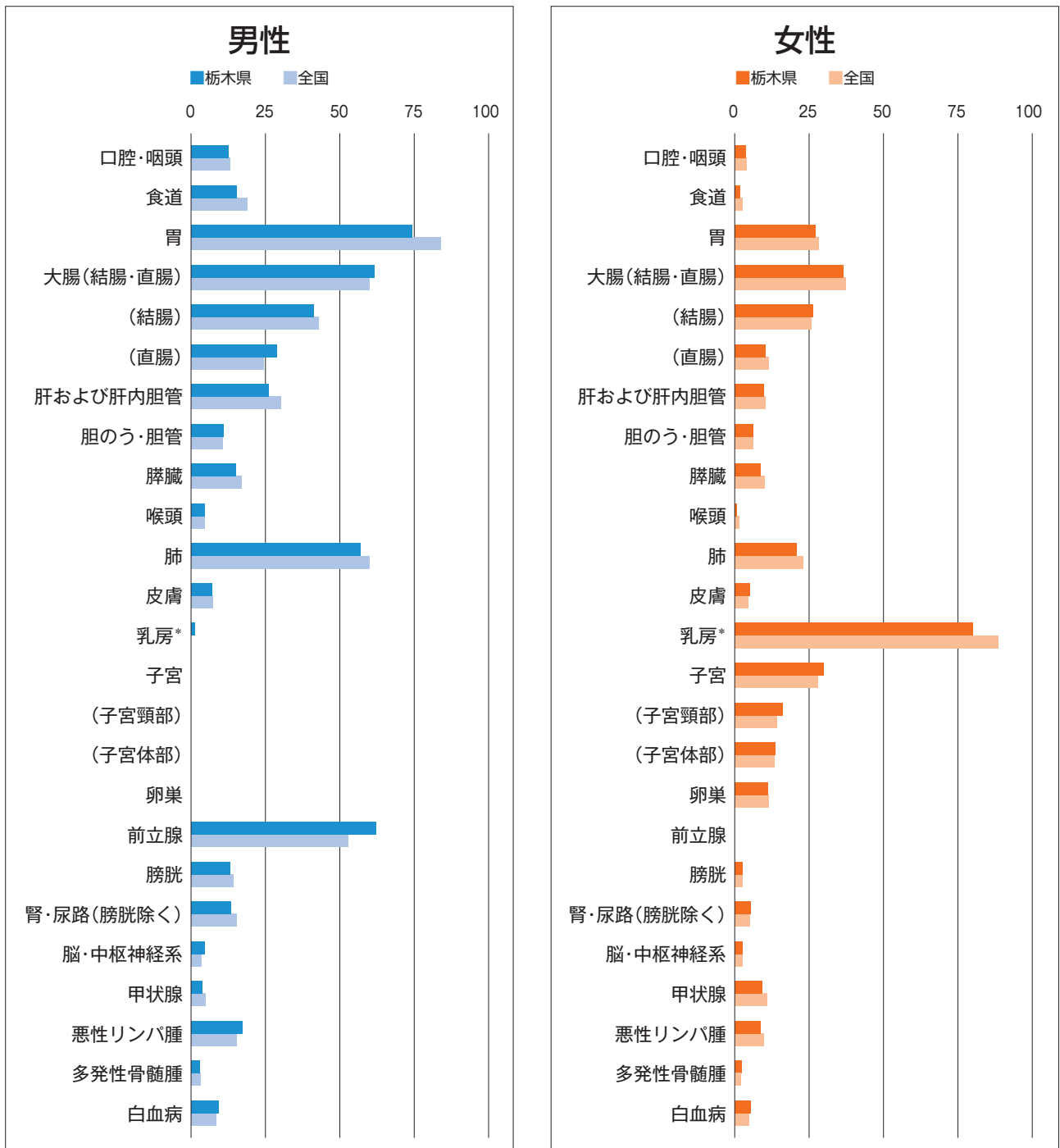
子宮頸部



栃木県のがんの罹患の特徴

日本全体の推計値と比較して年齢調整罹患率はほぼ同じような傾向があるが、前立腺がんが全国と比較して高かった。(図5)

図5 部位別がん年齢調整罹患率:人口10万対 (表1-Aから作成)



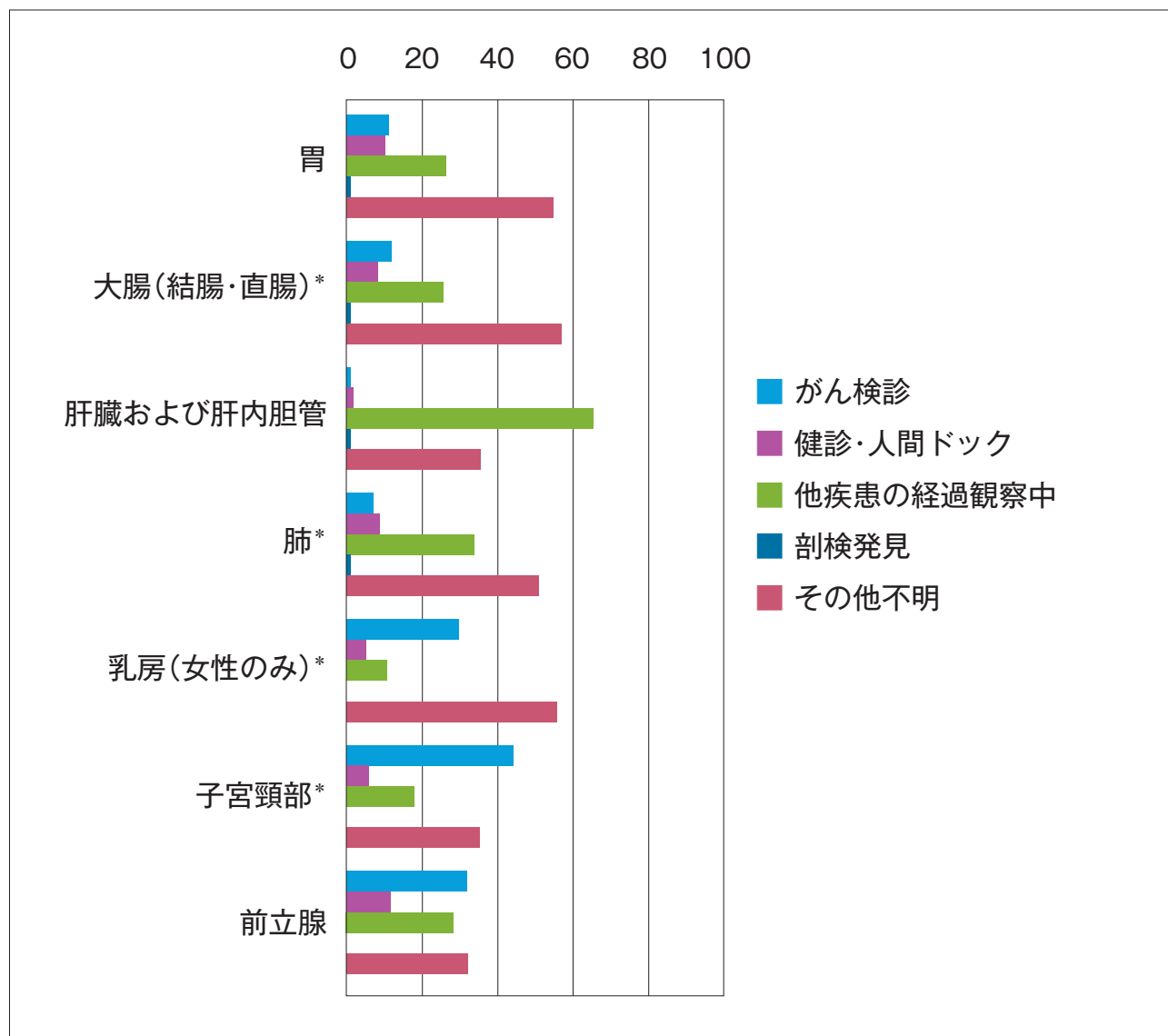
*乳房は全国、栃木とも上皮内がんを含む。

全国値は全国がん罹患モニタリング集計2010年より引用。

発見経緯

住民検診の実施されている胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部において、がん検診、もしくは健康診断・人間ドックが発見の経緯となった症例はそれぞれ胃20.6%、大腸19.5%、肺15.2%、乳房33.5%、子宮頸部48.0%であった。前立腺においては、41.7%であった。特に子宮頸部、前立腺においてその割合は高かった。(図6)

図6 部位別発見経緯(%):対象はDCOを除く届出患者 (表4-A、Bから作成)



*上皮内がんを含む。